

平成 24 年度
(H24. 4. 1~25. 3. 31)

学校法人川口学園 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学科

学校法人川口学園（東京都豊島区）は、埼玉女子短期大学（埼玉県日高市）、早稲田速記医療福祉専門学校（東京都豊島区）の2つの教育機関と社会教育法の定める通信教育機関を設置している短期大学法人です。

埼玉女子短期大学は、平成元年に埼玉県狭山市にて開学し、平成 11 年に同県日高市に移転、現在 2 学科を設置しています。

早稲田速記医療福祉専門学校は、昭和 10 年「早稲田式速記普及会 実地教授部」として設立され、昭和 26 年「早稲田速記学校」（各種学校）以降、学科増設や校名変更を経て、現在、医療・福祉系を中心とする学科を設置しています。

各学校の平成 24 年 5 月 1 日現在の入学定員、総定員、総在籍数、定員充足率は以下のとおりです。

【埼玉女子短期大学】（〒350-1227 埼玉県日高市女影 1 6 1 6）

学科名	入学定員	総定員	平成 24 年度	平成 25 年度 (参考)
			総在籍数/ 定員充足率	総在籍数/ 定員充足率
商学科	150 名	300 名	298/99.3%	286/95.3%
国際コミュニケーション学科	150 名	300 名	280/93.3%	323/107.7%
合 計	300 名	600 名	578/96.3%	609/101.5%

【早稲田速記医療福祉専門学校】（〒171-8543 東京都豊島区高田 3 - 1 1 - 1 7）

学科名	平成 24 年度 入学定員	平成 24 年度 総定員	平成 24 年度 総在籍数/定員充足率
	速記コンピュータ科	20 名	40 名
医療秘書科	120 名	240 名	
医療マネジメント科(2 年制)	40 名	80 名	
診療情報管理専攻科	30 名	30 名	
医療マネジメント科(4 年制)	10 名	40 名	
くすり・調剤事務科	40 名	80 名	
介護福祉科	60 名	120 名	
鍼灸医療科	30 名	90 名	
合 計	350 名	720 名	

(2) 役員・評議員・教職員の概要

平成 24 年 5 月 1 日現在の本学園役員及び評議員並びに教職員の概要は次のとおりです。

【役員】

理 事 理 事 長 川口 晃玉
専務理事 川口 拓也（法人本部担当）

常任理事	楯沢 栄一（埼玉女子短期大学学長）
常任理事	藤野 裕（早稲田速記医療福祉専門学校校長）
常任理事	金丸 雅樹（埼玉女子短期大学事務局長）
常任理事	金子 和人（法人本部事務局長）
理事	矢澤 酉二
監事	石川 力（公認会計士）
監事	村上 義紀

【評議員】

評議員 評議員 坂間 和男 他 16名

【教員の概要（専任）】

短期大学教員	19名
専門学校教員	25名
職員	38名

2. 事業の概要

平成24年度、各学校が行った取り組み等は次のとおりです。

【埼玉女子短期大学】

平成24年度の新入生は商学科144名、国際コミュニケーション学科169名の合計313名（前年278名）となりました。平成25年度については、地元埼玉県をはじめ東日本を中心に、302名の新入生を迎えることができました。

就職環境は求人やや回復傾向にありつつも、継続する厳選採用などにより、就職活動は容易ではありませんでしたが、きめ細かな就職指導と学生の積極性によって就職希望率約9割のなか、就職内定率95.1%（前年91.3%）の実績をあげることができました。

また、“企業に近いキャリア短大”として、ベースとなるマナー&ホスピタリティ教育とともに本学の特色のひとつであるインターンシップや企業研修への参加者数は、国内外多くの企業にご協力いただき延べ179名となり、希望者全員が参加できました。

さらに、学びとともに学生の意欲と自信に繋げる経験値を上げるための活動が充実し、学内行事やサークル活動、ボランティアへの参加促進のほか、企業連携などによる学外授業や研修も積極的に実施され、特に留学・海外研修には、従来から行われていたアメリカ、カナダに加え、新たに韓国、台湾などへ、延べ38名が参加して、機会と参加者増が図られました。

【早稲田速記医療福祉専門学校】

平成25年度の新入生は、全学科合計で377名（前年343名）となりました。また、平成25年3月卒業生の就職に関しては、就職試験の倍率が高いケースが多く、採用環境の厳しい中で、医療・福祉業界と太いパイプで結ばれた「就職に強いSOKKI」の力を発揮し、97.9%（前年97.7%）の決定率を確保しました。さらに、本校の特色の一つである正規就業比率は97.1%（前年99%）

の実績を上げ、卒業生は、病院・調剤薬局・クリニック等の受付や事務スタッフ、福祉施設の介護スタッフとして活躍しています。

教育面の取り組みとしては、入学時オリエンテーションの充実を図り、挨拶・マナーなど本校の教育の姿勢を示すとともに、クラス内での仲間づくりの機会としても活用しました。また、年間を通じて教員研修会と教職員全体会を定期的に行い、日常の教育課題に対する議論を通じて、共通の認識のもと全員が協力して速やかに問題解決に当たるとともに、医療事務系教科研究会では、検定試験の合格率向上に向けた指導対策に取り組み、合格率の向上に成果が見られました。

SOKKI では、在学中の学びで「考える力(Think)」・「積極性(Positive)」・「対話力(Communication)」を磨き、卒業後の40年間、社会人として活躍していける力を身につけることを目標にした、「2-40プロジェクト」にも取り組み、その活動の一環として卒業生の学びのニーズに応える「卒業生支援講座」も企画・実施しました。

3. 財務の概要

平成25年3月末日現在の財務状況と当期の予算執行状況について、その概況を報告いたします。

(1) 財産目録・貸借対照表

財 産 目 録

平成25年3月31日現在

I. 資産総額	金 8,349,191 千円
内 基本財産	金 6,161,762 千円
運用財産	金 2,187,429 千円
II. 負債総額	金 1,858,787 千円
III. 正味財産	金 6,490,404 千円

区 分	金 額
<資産額>	
1. 基本財産	
土地	64,352.28 m ² 3,603,626 千円
建物	16,049.95 m ² 2,287,381 千円
構築物	28 点 26,185 千円
図書	63,997 冊 196,508 千円
教具・校具・備品	2,610 点 40,955 千円
その他	711 点 7,107 千円
2. 運用財産	
現金預金	1,206,664 千円
その他	980,765 千円
資 産 総 額	8,349,191 千円
<負債額>	
1. 固定負債	
長期借入金	244,996 千円
その他	418,848 千円
2. 流動負債	

短期借入金	123,372 千円
その他	1,071,571 千円
負債総額	1,858,787 千円
<正味財産> (資産総額－負債総額)	6,490,404 千円

(2) 貸借対照表

決算時(年度末)における資産・負債・基本金及び収支差額を把握するもので、法人の財政状態を表しています。

平成24年度末の資産は、現金預金が2千8百万円増加しましたが、減価償却による固定資産の減少が1億8千7百万円ありましたので、総資産は83億4千9百万円と前年度末に比べ1億3千5百万円減少しています。

負債の部については、返済により長期・短期借入金が1億2千7百万円減少し、学生数の増加により前受金が5千6百万円増加したため、前年度末より負債の部合計が6千8百万円減少しました。

総資産から負債の部合計を差し引いた正味財産は64億9千万円となり、前年度末に比べ6千7百万円減少しました。

貸借対照表

平成25年3月31日現在

(単位千円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	7,067,154	7,224,662	△157,508
有形固定資産	6,754,296	6,911,437	△157,141
土地	4,148,026	4,148,026	0
建物	2,335,492	2,476,808	△141,316
その他の有形固定資産	270,778	286,603	△15,825
その他の固定資産	312,858	313,225	△367
流動資産	1,282,037	1,259,128	22,909
現金預金	1,206,664	1,178,658	28,006
その他の流動資産	75,373	80,470	△5,097
資産の部合計	8,349,192	8,483,790	△134,598

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	663,845	822,566	△158,721
長期借入金	244,996	368,368	△123,372
その他の固定負債	418,849	454,198	△35,349
流動負債	1,194,943	1,104,319	90,624
短期借入金	123,372	126,872	△3,500
その他の流動負債	1,071,571	977,447	94,124
負債の部合計	1,858,788	1,926,885	△68,097
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	8,910,260	8,895,974	14,286

第3号基本金	55,000	55,000	0
第4号基本金	231,000	231,000	0
基本金の部合計	9,196,260	9,181,974	14,286
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	2,705,856	2,625,069	△80,787
消費収支差額の部合計	△2,705,856	△2,625,069	△80,787
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	8,349,192	8,483,790	△134,598

(3) 資金収支計算書

資金収支計算書とは、当該会計年度の諸活動に対する全ての収入・支出内容を明らかにし、かつ支払資金(現金及びいつでも引き出すことのできる預貯金)の収入・支出の顛末を明らかにするものです。つまり資金収支計算書は、資金の年初と年度末残高を明らかにします。

平成24年度の資金収入は合計29億3千6百万円となり、前年度に比べると3千1百万円減少しましたが、予算額を7千9百万円超過しました。前年度からの減少の要因は、国庫補助金収入の1千9百万円の減少と、前年度には不動産売却収入1千7百万円が発生したことが挙げられます。予算額超過の要因は、短期借入金収入が5千万円発生し、前受金収入が1千6百万円予算超過になったことが挙げられます。

資金支出は、前年度との比較においては人件費支出が5千8百万円減少、教育研究経費支出が9百万円増加、管理経費支出が3千万円減少し、支出合計では前年度とほとんど同額の29億3千6百万円になりました。予算額との比較では、借入金返済支出5千万円と資金支出調整勘定4千万円が超過し、支出合計では7千9百万円が予算額を超過しました。

そして次年度に繰り越す支払資金は12億7百万円となり、前年度より2千8百万円増加しました。

資金収支計算書

平成24年4月 1日
平成25年3月31日

(単位千円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,408,605	1,408,605	0
手数料収入	11,130	11,511	△381
補助金収入	82,400	88,484	△6,084
国庫補助金収入	80,000	86,108	△6,108
地方公共団体補助金収入	2,400	2,376	24
資産運用収入	45,518	46,288	△770
事業収入	67,447	66,667	780
雑収入	17,309	17,724	△415
借入金等収入	0	50,000	△50,000
前受金収入	865,733	882,116	△16,383
その他の収入	72,730	77,121	△4,391
資金収入調整勘定	△893,030	△891,246	△1,784
前年度繰越支払資金	1,178,658	1,178,658	0
収入の部合計	2,856,500	2,935,928	△79,428

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	690,934	691,662	△728
教育研究経費支出	559,946	555,538	4,408
管理経費支出	271,782	273,584	△1,802
借入金等利息支出	10,600	10,623	△23
借入金等返済支出	126,872	176,872	△50,000
施設関係支出	10,400	8,610	1,790
設備関係支出	11,495	9,140	2,355
その他の支出	120,712	118,629	2,083
予備費	2,422		2,422
資金支出調整勘定	△75,000	△115,394	40,394
次年度繰越支払資金	1,126,337	1,206,664	△80,327
支出の部合計	2,856,500	2,935,928	△79,428

(4) 消費収支計算書

消費収支計算書は、当該会計年度における消費収支の均衡状況とその内容を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかを示すもので、いわば企業会計の損益計算書にあたるものです。

平成24年度の帰属収入は合計16億5千2百万円で、前年度に比べ1千9百万円減少しました。これも資金収支計算書と同様に国庫補助金の減少と、前年度は不動産売却差額が発生したためです。基本金組入を1千4百万円おこないませんので、消費収入は16億3千8百万円となりました。

消費支出の合計は17億1千8百万円となり、前年度に比べ1億8千1百万円減少となりましたが、これも資金収支計算書と同じく人件費と管理経費の減少が要因となっています。特に前年度は、退職給与引当金の計上方法の変更にともない退職給与引当金特別繰入額が発生し、今年度の人件費との差異を大きくしている要因となっています。予算額との比較ではそれほど大きな差異はなく、支出合計で1千万円の予算未達となっています。

結果的に消費収支は8千1百万円の支出超過となり、前年度に比べると1億6千2百万円の改善、予算との比較では1千8百万円の未達となりました。

消費収支計算書

平成24年4月 1日

平成25年3月31日

(単位千円)

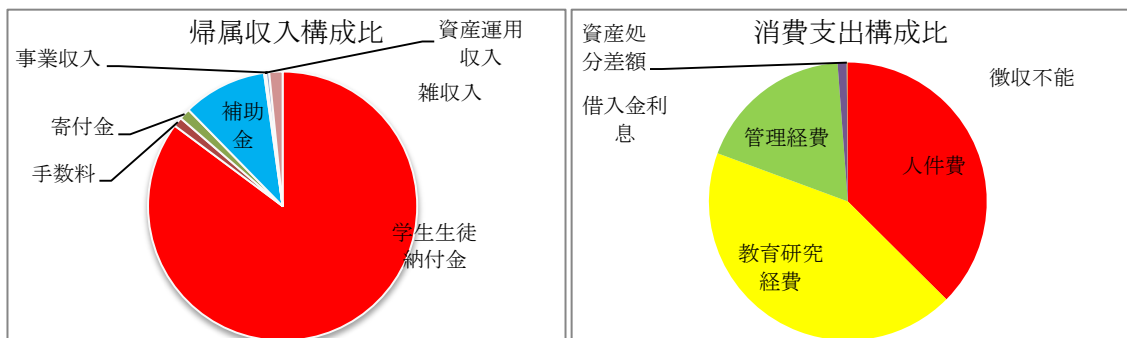
消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,408,605	1,408,605	0
手数料	11,130	11,511	△381
寄付金	12,450	12,638	△188
補助金	82,400	88,484	△6,084
国庫補助金	80,000	86,108	△6,108
地方公共団体補助金	2,400	2,376	24
資産運用収入	45,518	46,288	△770
事業収入	67,447	66,667	780
雑収入	17,309	17,724	△415
帰属収入合計	1,644,859	1,651,917	△7,058

基本金組入額合計	△15,000	△14,286	△714
消費収入の部合計	1,629,859	1,637,631	△7,772
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	687,854	687,785	69
教育研究経費	710,403	706,244	4,159
管理経費	309,353	310,732	△1,379
借入金等利息	10,600	10,623	△23
資産処分差額	0	36	△36
徴収不能引当金繰入額等	4,420	2,998	1,422
予備費	6,126		6,126
消費支出の部合計	1,728,756	1,718,418	10,338
当年度消費支出超過	98,897	80,787	
前年度繰越消費支出超過額	2,625,069	2,625,069	
翌年度繰越消費支出超過額	2,723,966	2,705,856	

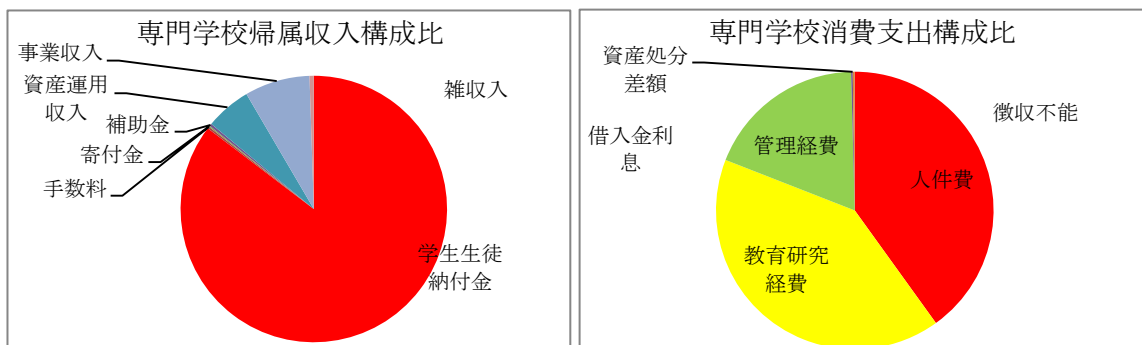
■消費収支差額3か年推移

	22年度	23年度	24年度
消費収入の部合計	1,909,753	1,657,038	1,637,631
消費支出の部合計	1,871,457	1,899,555	1,718,418
当年度繰越消費収入超過額	38,296	△242,517	△80,787

■短大帰属収入・消費支出構成比



■専門学校帰属収入・消費支出構成比




監査報告書

平成25年5月13日

学校法人 川口学園
理事会・評議員会 御中

学校法人 川口学園

監事 村上義紀 

監事 石川 

私たちは、学校法人川口学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の平成24年度(平成24年4月1日～平成25年3月31日まで)における財産目録及び計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表)を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、事業報告書の内容についてもチェックを行うなど必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めました。

以上